

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月29日現在

機関番号：10101

研究種目：新学術領域研究

研究期間：2008～2012

課題番号：20101007

研究課題名（和文） 地域大国の文化的求心力と遠心力

研究課題名（英文） The Centripetal and Centrifugal Forces of Culture

研究代表者

望月 哲男 (MOCHIZUKI TETSUO)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：90166330

研究成果の概要（和文）：

ロシア、中国、インドの近代に関して、1) 相互イメージの形成とその動態、2) 思想・宗教文化の相互作用のあり方、3) 表現文化におけるユーラシア表象のありかた、4) 文化アイデンティティにおける記憶の意味、5) 現代的文化状況への対応の形、という諸点から比較分析し、ユーラシア3大国の近代文化の特徴を解明した。

研究成果の概要（英文）：

The major fruit of this research project is comprehensive analysis and the newest knowledge concerning the specificity of modern Eurasian cultures. Its main issues were: 1) the formation of mutual images among Eurasian superpowers, 2) cultural interaction in the fields of religion and thought, 3) images of Eurasia in cultural representation, 4) roles of memory for cultural identity, 5) adaptation to the new cultural situation. Final results of the research project will be published in "Eurasia and Asia in Modern culture," vol. 6 of the series "Regional Powers" (Tokyo, 2013).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,800,000	1,740,000	7,540,000
2009年度	13,100,000	3,930,000	17,030,000
2010年度	15,800,000	4,740,000	20,540,000
2011年度	19,400,000	5,820,000	25,220,000
2012年度	13,100,000	3,930,000	17,030,000
総計	67,200,000	20,160,000	87,360,000

研究分野：総合人文社会

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：ユーラシア 地域大国 文化統合 求心力 自己イメージ

1. 研究開始当初の背景

ロシア、中国、インドは、各「文明圏」を代表するユーラシア世界の本質的構成主体として、周辺世界に大きな影響を与え続けてきた。現在では、それぞれが新しいグローバル文化への適応と、20世紀的な社会・文化体制の見直しや転換という、同質の課題に直面している。それぞれの地域の文化に関する研究

や翻訳・紹介においては、わが国にも諸外国にも深い歴史と蓄積がある。しかし、地理的・地政学的な条件も言語・文化もまったく異なるこれらの諸国の文化的比較研究は、これまでまったく手薄であった。ロシア極東と中国、中国とインドなどの組み合わせによる部分的比較研究は、文化人類学、歴史、経済などの分野で進められてきたが、ユーラシアの地

域大国・文化大国としての総合的な比較文化研究は、方法論を含めて新しく構築されるべき未知の領域だった。本研究はユーラシア3大国の地域研究者の協力体制により、異文化間の比較研究にまつわる諸問題を言語や概念、方法論の段階から検討し、各分担者の積み上げてきた知識やスキルを効果的に総合することにより、そうした新しい研究の創造を目指すものとして企画された。

2. 研究の目的

20世紀末からのオリエンタリズム批判、ポストコロニアル批評や「帝国」論の隆盛の中で、ユーラシア地域大国の文明的な意味を捉え直す観点と方法が問題化されてきた。西欧的な国民国家論や民主主義の尺度だけでは説明不能なこれらの国々の社会文化や精神文化は、現代世界においてどのような意味を持っているか？ これらの国を含むユーラシア世界は、文化空間としてどのような特徴を持ち、どのような形で現代世界に適応しようとしているか？ 本研究では現代のこれらの国家を比較文化論的な観点から捉え、過去の文明圏的なアイデンティティが現代世界の文化環境とどのように関係しているか、ユーラシアという場において、相互にいかなる対話と対抗の磁場を作っているかという問題を検討する。

3. 研究の方法

以下の3点を柱として、近代以降のユーラシア地域大国の文化動態を比較分析する。

- (1) 文化統合イデオロギーからみるユーラシア像：ロシアのユーラシア主義、中国の華夷秩序思想、インドのヒンドゥー・ナショナリズムなどの成り立ち、機能、地域アイデンティティとの関連を、近代以降の西欧との関係や現代の体制変動との関連において分析。
- (2) 言語とコミュニケーションの動態：多民族・多言語社会の文化動態を、帝國的環境との関連、翻訳文化の様態、現代的メディア環境への適応といった諸側面から捉える。
- (3) 文芸と文化的アイデンティティ：表現文化の諸領域における近代以降の流れを、古典と現代文芸の関係、身内と他者表象のあり方、歴史と記憶の表象法、グローバル化との関わりという諸点から解明する。

4. 研究成果

- (1) 相互イメージ形成の解明：17世紀以降の3カ国の文化交流史と相互に関する言説を研究し、相互イメージの形成プロセスと、ユーラシア文化論にとってのその意味を分析した。
- (2) 思想・宗教文化の相互作用の解明：キリスト教、仏教、神秘主義、非暴力思想を主な題材に、ユーラシア大国間の思想的な相互作用

の経緯を調べ、近代化の過程におけるその意味を分析解明した。

(3) ユーラシア表象の特徴解明：ユーラシア内部におけるオリエンタリズムの展開をテーマに、近代以降の美術、音楽、文学、映画などの表現芸術におけるユーラシア表象の歴史と現状を調査し、その特徴を解明した。

(4) 文化アイデンティティにおける記憶の意味の解明：歴史記述、聖地・文化遺産、記念碑など、過去の出来事の記憶にかかわる事象が現代の文化的アイデンティティに持つ意味を、20世紀以降の各地域の特殊な経験を考慮しながら比較分析した。

(5) 現代的文化状況への対応：20世紀末以降の体制転換、情報・交通環境の変化、グローバル化とポストモダン潮流の広がりといった状況がユーラシア文化に与える影響と、それへの対応の諸相を分析した。

以上の研究成果は本研究の中間成果報告媒体である比較地域大国論集の第5, 11, 12, 13巻にわたって発表された。最終成果は比較地域大国論シリーズ第6巻『近代文化におけるユーラシアとアジア』（ミネルヴァ書房, 2013年刊行予定）に発表される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計81件)

① Takako Inoue, The Reception of Western Music in South India around 1800, Tetsuo Mochizuki & Go Koshino (eds), *Orinet on Orient: Images of Asia in Eurasian Countries, Comparative Studies on Regional Powers*, No. 13, 2013, 査読無 pp. 69-96.

http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/publications/no13/13_2-3_Inoue_mono.pdf

② Tetsuo Mochizuki, Nonviolence by Tolstoy & Gandhi: Toward a Comparison through Criticism, Tetsuo Mochizuki, Shiho Maeda (eds.) *India, Russia, China: Comparative Studies on Eurasian Culture and Society*. Comparative Studies on Regional Powers No.11, 2012, 査読無 pp.149-169.

http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/publications/no11/11-12_Mochizuki.pdf

③ Yujiro Murata, The Regional Structure of the 1911 Revolution: The North and the South in Chinese History, *Journal of Cultural Interaction in East Asia*, Vol.3, 2012, 査読無 pp.7-18.

http://kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/bitstream/10112/6321/1/05Article_Murata%20Y%20c%20abjir%20c%208d.pdf

④ 杉本良男, 比較による真理の追求ーマックス・ミュラーとマダム・ブラヴァツキー, 出口顯・三尾稔(編)『人類学的比較再考』(国

立民族学博物館調査報告 90), 2010, 査読有, pp.173-226.

http://ir.minpaku.ac.jp/dspace/bitstream/10502/4459/1/SER90_009.pdf

⑤武田雅哉, 「雷鋒おじさんに学ぼう！」の図像学, 『革命の实践と表象 中国の社会変化と再構築』(韓敏編, 風響社), 第1部5章, 2009年, 査読無, pp.131-154.

[学会発表] (計 39 件)

①村田雄二郎, 漢字文化圏の同床異夢, 東北アジア財団・東アジア史研究フォーラム主催「東アジア文化の中の中国 China in East Asian Culture」, 2012年11月2-3日, ソウル, 延世大学, 韓国.

②Tetsuo Mochizuki, Ненасилие как анти-модернизм: Отклик Ганди на идею Толстого на фоне Русско-японской войны (反近代としての非暴力: 日露戦争時ガンディーのトルストイ主義への反応), シンポジウム: 近代文化: スラブと日本の対話, 2012年8月29日, ベオグラード大学, セルビア.

③Takako Inoue, Christian Music in India: As Intermediary Actors in the Contact Zone, Conference Organized by SRC and CSCS “Comparative Aspects on Culture and Religion: India, Russia, China,” 2011年9月15日, Centre for the Study of Culture and Society, Bangalore, India.

④中村唯史, Before an Unknowable Current: Boris Eikhenbaum's Perception of History, 国際中欧・東欧研究協議会 (ICCEES) 第8回世界大会, 2010年7月26-31日, Stockholm City Conference Center, ストックホルム, スウェーデン.

⑤Yoshio Sugimoto, Politicizing Miracles: Socio-religious Power Relations and Post-Tsunami Spread of Miracle Stories in Tamilnadu, 2010 Association of American Geographers, Annual Meeting, 2010年4月17日, Omni Shoreham, ワシントンDC, U.S.A.

⑥武田雅哉, ビリっ! と来た日: 電気・心霊・SF・革命, 新学術領域第6班研究会「ユーラシア地域大国の神秘主義をめぐる」, 2009年12月20日, 北海道大学.

⑦中村唯史, 19世紀末-20世紀初のロシア神秘主義と「東洋」の表象, 比較地域大国論・第6班「文化」研究成果・活動報告, 2009年12月20日, 北海道大学.

[図書] (計 30 件)

①Tetsuo Mochizuki, Go Koshino (eds.), *Orient on Orient: Images of Asia in Eurasian Countries, Comparative Studies on Regional Powers No.13*, 北大スラブ研究センター, 2013, 198 p.

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/publications/no13/contents.html>

②Tadashi Nakamura (ed.), *Imagining the Landscape: Views from Armenia and Japan, Comparative Studies on Regional Powers, No. 12*, 北大スラブ研究センター, 2013, 131 p.

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/publications/no12/contents.html>

③立川武蔵・海津正倫・杉本良男編著, 『朝倉世界地理講座-大地と人間の物語4南アジア』, 朝倉書店, 2012, 470 p.

④武田雅哉, 万里の長城は宇宙から見えるの?, 講談社, 2011, 256 p.

⑤孔祥吉・村田雄二郎, 清末中国と日本—宮廷・変法・革命, 東京: 研文出版, 2011, 362 p.

⑥井上貴子編著, アジアのポピュラー音楽: グローバルとローカルの相克, 勁草書房, 2010年, 259 p.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/group_06/index.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

望月 哲男 (MOCHIZUKI TETSUO)
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号: 90166330

(2) 研究分担者

井上 貴子 (INOUE TAKAKO)
大東文化大学・国際関係学部・教授
研究者番号: 10307142
中村 唯史 (NAKAMURA TADASHI)
山形大学・人文学部・教授
研究者番号: 20250962
武田 雅哉 (TAKEDA MASAYA)
北海道大学・文学研究科・教授
研究者番号: 40216908
杉本 良男 (SUGIMOTO YOSHIO)
国立民族学博物館・民族社会研究部・教授
研究者番号: 60148294
村田 雄二郎 (MURATA YUJIRO)
東京大学・総合文化研究科・教授
研究者番号: 70190923

(3) 連携研究者

三谷恵子 (MITANI KEIKO)
京都大学大学院人間・環境学研究科・教授
研究者番号: 10229726
野町素己 (NOMACHI MOTOKI)

北海道大学・スラブ研究センター・准教授
研究者番号：50513256

学科・講師

(4) 研究協力者

越野 剛 (KOSHINO GO)
北海道大学・スラブ研究センター・助教
後藤 正憲 (GOTO MASANORI)
北海道大学・スラブ研究センター・助教
住家 正芳 (SUMIKA MASAYOSHI)
立命館大学・准教授
前田 しほ (MAEDA SHIHO)
北海道大学・スラブ研究センター・学術研究員
小松 久恵 (KOMATSU HISAE)
北海道大学・スラブ研究センター・学術研究員
平山 陽洋 (HIRAYAMA AKIHIRO)
北海道大学・スラブ研究センター・学術研究員
高本 康子 (KOMOTO YASUKO)
北海道大学・スラブ研究センター・学術研究員
高橋 紗奈美 (TAKAHASHI SANAMI)
筑波大学・学振特別研究員 (P D)
今井 昭夫 (IMAI AKIO)
東京外国語大学総合国際学研究院・教授
高山 陽子 (TAKAYAMA YOKO)
亜細亜大・国際関係学部・准教授
岡光 信子 (OKAMITSU NOBUKO)
東北大学大学院・博士課程
小林 宏至 (KOBAYASHI HIROSHI)
首都大学東京・博士課程
前島 訓子 (MAESHIMA NORIKO)
名古屋大学大学院・博士課程
近藤 光博 (KONDO MITSUHIRO)
日本女子大学・文学部史学科・准教授
塚崎 今日子 (TSUKAZAKI KYOKO)
札幌大学・非常勤講師
藤井 得弘 (FUJII TOKUHIRO)
北海道大学大学院・博士課程
久野 康彦 (HISANO YASUHIKO)
青山学院大学・非常勤講師
鳥山 祐介 (TORIYAMA YUUSUKE)
千葉大学文学部・准教授
常田 夕美子 (TOKITA YUMIKO)
大阪大学グローバルコラボレーションセンター・特任准教授
田村 容子 (TAMURA YOKO)
福井大学教育地域科学部・准教授
向後 恵里子 (KOGO ERIKO)
早稲田大学文学学術院・助教
中野 徹 (NAKANO TORU)
近畿大学・講師
桜間 瑛 (SAKURAMA AKIRA)
北海道大学大学院文学研究科
松尾 瑞穂 (MATSUO MIZUHO)
新潟国際情報大学情報文化学部情報文化